豊かな自然と融和した 新しい「学び舎」完成

本年度改築工事が進められていた「南富良野中学校校舎」が10月末に完成し、11月14日に生徒や保護者、教職員などの関係者により机や椅子、図書や教材、備品などの引越し作業が行われ、翌日から新しい学び舎での授業がはじまりました。

改築校舎はこれまでの校舎の南側（後方）に建設され、総工費7億6千万円（旧校舎解体・備品購入費を含む）、構造はRC平屋建で建築面積は2，126・03㎡です。

校舎は自然環境に溶け込んだデザインで、校舎入り口と多目的ホールは吹き抜として特徴を持たせ、上部から自然採光も取り入れた構造となっています。

校舎玄関・多目的ホールを挟んで職員室部門と教室部門に分かれ、教室部門は2本の廊下の配置となっています。

教室部門の南側には普通教室3室、特殊学級室（間仕切りで2室対応可能）、教材室があり、中央部にはコンピューター室、美術室、トイレなどを配置し、北側には音楽室、理科室、家庭科室を配置することで、生徒が移動しやすく学習環境にも配慮した校舎です。

職員室部門では、職員から多目的ホールや廊下を見渡せるよう、窓を多く採用し、出入り口をオープンにした図書コーナーや保健室、屋内運動場側には会議室があり、生徒や教職員など学校関係者や、地域の方などの学校開放の利用などにおいても活用しやすいよう配置されています。

設備関係では、地球環境にやさしい省エネ化を目指し、環境教育の推進を図るため、太陽光発電パネルを設置し、生徒の皆さんが日常において発電量を確認できるよう多目的ホールにメーターが取り付けられているほか、各教室などの主暖房の熱源として、本町の主要産業のひとつである林業と連携し、木質チップを燃料とするバイオマスボイラーが町内の公共施設では初めて導入されています。

また、南富良野中学校は、平成17年3月に町内にあった4つの中学校を統合し、誕生したことから、多目的ホールの側面には、閉校となった中学校の記録や歴史などをパネル展示しています。

南富良野中学校新校舎配置図